

第21回 市長と話そうの様子

開催日時	2026年2月5日（木） 15:30 ～ 17:00	場所	臼杵中央公民館 小会議室
団体名	臼杵市の猟師の会		
団体概要	臼杵市の猟師で構成され、以下の取組を実施。 ・有害鳥獣対策 ・狩猟の適正化と安全確保 ・地域社会への貢献 ・自然環境の保全		
話し合いのテーマ	① 臼杵市狩猟者の現状 ② 狩猟者の育成 ③ 農業者の獣害の現状		
参加者	11名（団体メンバー10名、西岡市長）		

対話の様子

対話では、臼杵市の狩猟者の現状や育成、農業における獣害の現状などについて意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

- ・ 臼杵市猟友会の会員数は178名で、平均年齢は62歳である。年齢構成比では70代が最も高く、高齢化が進んでいる。10年後には大幅な会員減少が予測されることから、次世代の狩猟者育成は喫緊の課題である。
- ・ 猟師の方との交流を通じて農業における獣害の深刻な実態を目の当たりにし、危機感を抱いたことをきっかけに、自らも有害鳥獣捕獲に携わる決意をした。
- ・ 自らが企画して、罠免許を取得したばかりの初心者を対象に猟師体験イベントを開催している。罠猟の現場体験やジビエ料理を通じ、狩猟の魅力を直接伝えている。こうした入り口を広げることで、将来的な銃猟への関心喚起と、新たな狩猟者の育成を図っている。
- ・ 郷土料理教室のように、ジビエ料理教室を企画し、飲食店や猟師と連携して開催してはどうか。適切な処理を施したジビエは非常に美味しく、その魅力を主婦層や子どもたちに直接体験してもらうことで、狩猟やジビエへの理解・関心を高めることができると思う。
- ・ 関東から数年前に移住してきたが、関東の猟師は意外と若い人が多かった。趣味や自然体験の一環として狩猟を楽しんでいる方が多かった印象。「猟師」という呼称に加え、より親しみやすく現代的な「ハンター」という呼び方を活用すると良いと思う。
- ・ 市役所などを通して先輩猟師を紹介する制度など、免許取得後の技術向上や活動継続を支援するフォローアップ体制がシステム化されると良いと思う。
- ・ 市内各地にイノシシ・シカ対策の柵が張り巡らされているが、初期に設置されたものは老朽化して機能していない箇所もある。イノシシは非常に賢く、防護柵の弱い箇所や人間が見落としした小さな隙間を見つけて出入りする。防護柵の設置・更新の際には、猟師や専門家の意見も踏まえた設計が必要である。

市長からは、以下のような話がありました。

- ・ 私自身は狩猟の経験がなく、銃の扱いやマナーについても知見が十分ではない。まずは現場の実情を教えてください。浮かび上がった課題に対し、市として何ができるのかを皆様と一緒に考えていきたい。
- ・ かつて新聞記者から猟師に転身した方の著書を読んだ際、「狩猟技術は誰も教えない。見て盗め」という昔気質な指導法が描かれていたが、現代の若者に同じやり方を求めるのは難しいと思う。本日たくさんのアイデアや気づきをいただいたので、担当課と相談をしながら次世代育成の仕組みを考えていきたい。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行っていきます！

